

事務局たより

第13号 2017年6月20日 chyda-kr@f8.dion.ne.jp

◇事務局 101-0061 千代田区三崎町2-19-8 杉山ビル2F
千代田区労協気付 T:03-3264-2905 F:03-6272-5263



国民弾圧・冤罪捏造凶器の“共謀罪”

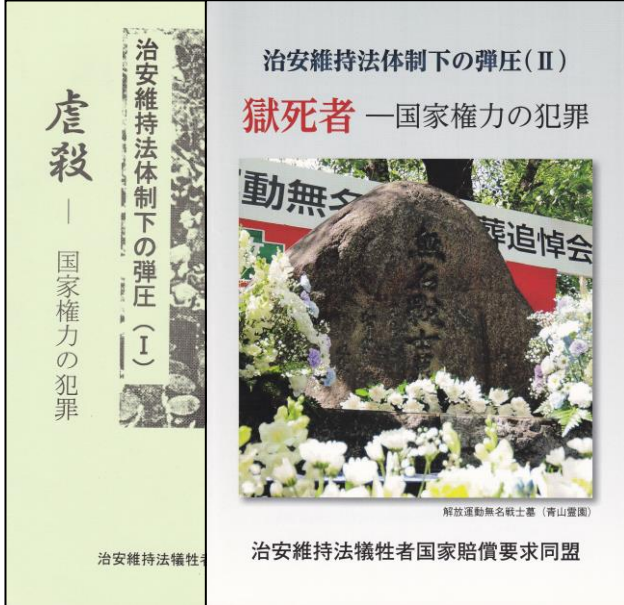
適用させず、本質暴露し、断固廃止!

問答無用剥き出しで“共謀罪”の採決強行——。安倍政権は、2012年暮以降わずか5年間で、秘密保護法(13.12)、武器輸出解禁(14.4)、集団的自衛権行使決定(14.7)、戦争法(15.9)、盗聴法刑法訴法改悪(16.5)、そして共謀罪(17.6)を強行してきました。さらに法務大臣が「治安維持法は適法であった」と答弁する事態です。安倍政権はまた、“共謀罪”画策にいたる裏で、政治を私物化し、ウソをつき通して恬として恥じない人倫に悖る悪政を続けていることが次々と明るみに出てきました。一方、権力を監視すべき新聞も、首相が「読め」と推奨する御用新聞が出現する始末です。これはもう民主主義に基づく政府ではありません。「多数絶対問答無用政府」とでも言わざるを得ません。安倍政権はこの地ならしの先に憲法改悪を画策しています。

秘密保護法から共謀罪策動に対して、全国各地でこの暴走に反対する人々の声が高まっています。沖縄の山城博治さんは、150余日にわたる不当勾留にも断固耐え抜いて「今こそ立ち上がろう!」とこぶしを振り上げて叫んでいます。寒い日も、暑い日も、国会を包囲する高齢者は「アベ政治を許さない!」と怒りを行動で突きつけています。若ものたちは、デモで、集会で、力いっぱい叫んでいます。私たちは、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を知るほどに、再び国民弾圧・冤罪捏造社会にはしてはならないとの思いを新たにして、訴えてきました。共謀罪は成立しました。しかし、決してあきらめません。この悪法を適用させないために、さらに国民弾圧・冤罪捏造の本質を暴露し、断固廃止させるために、引き続き、訴え、行動に参加していく決意です。「負けてたまるか!」です。

「真相を広める会」事務局 福島清、根岸正和、水久保文明

「治安維持法」これでも適法と言うのか！



6月2日の参院法務委員会で、治安維持法犠牲者救済と名誉回復を求めた畑野君枝議員の質問に対して、金田法相は「(同法は)適法に制定され、勾留・拘禁、刑の執行も適法だった」とし「損害を賠償すべき理由はなく、謝罪・実態調査も不要だ」と答弁したのです。

小林多喜二は1933年2月20日午後、特高に逮捕され、東京築地警察署で、拷問によって数時間後に虐殺されました。拷問の跡が歴然としているのに、当局は「心臓麻痺」だと新聞発表しました。

治安維持法下、特高により送検された人68,274人、うち起訴5,550人、警察で虐殺された人93人、獄死した人400余人(治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟資料から)。

金田法相は、これらすべてが適法だったのでしょうか。この言い分が通れば、軍機保護法違反で懲役15年とされた宮澤弘幸も適法だったということになります。こんな認識が、今国会の場で公然と答弁されていることに、底知れぬ恐怖を感じ、怒りを駆り立てられます。

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」によってスパイとされた宮澤弘幸、レーン夫妻と、治安維持法により虐殺された人々、獄死させられた人々の苦難と無念は同じです。

ここに思いをさせて、今後治安維持法の犠牲者を紹介するとともに、安倍政権を打倒するための宣伝と行動をさらに積み上げていきたいと思います。(福島 清)

シンポジウム「大学と戦争」に参加して

5月28日・北海道クリスチャンセンター 刈谷純一

日本ジャーナリスト会議北海道支部主宰のシンポジウム「大学と戦争」が5月28日、北大近くの北海道クリスチャンセンターで約100人の聴衆を集めて開かれた。野田正彰氏(作家・精神病理学者)の基調報告のあと藤田正一元北大副学長ら4氏のパネリストを交えての報告があった。

野田氏は「大学が戦時中したことを総括しないまま被害者顔で民主教育に移行したことに現在の諸問題がある。レーン宮澤事件で宮澤君の妹が北大に来たときも、まず学長は、戦時中の処置を謝るべきだ。

ドイツのミュンヘン大学はナチスに抵抗する白バラ運動で殺された兄妹の大きな記念室を大学の中心に作り、学生に伝えている。北大は何をし何をしなかったのか。しなかった総括が必要である。そのため現代の我々が出来るかぎりの証言や実態を掘り起こし記録する必要がある。九州大学や長崎大学では軍部に協力し

て中国人の生体解剖を行いながら反省もしていない」と述べた。

レーン宮澤事件に関して藤田氏は「私が副学長だったとき、記念碑を建てるのを許可しましょう、と言ったが学長は受け入れなかった。宮澤君の学生時代のアルバムを妹さんが北大に寄贈した。何とすばらしい学生時代だったかと思わせる。私はこれを遺すため資料室にわかりやすく展示した」と述べたのが注目された。

干場信司・前酪農学園大学長は「文科省の大学支配が強まっているが、何でも言えるのは大学とマスコミだ」と激励、小野有五・北星学園大学教授は「植村氏の雇用問題は、学園が戦時中の総括をしていない弱点もあった」と語った。河野民雄氏は著書の「治安維持法下の北大生の抵抗運動」について述べ、野田氏から「この本を読みあって、北大の総括に取り組もう」との発言があった。

身近にいた治安維持法の犠牲者

同じ苦難を繰り返させてはならない

福島清さんから「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟」に関する資料と映画「種まく人びと」のDVDを頂きました。読むにつれ、怒りが増幅します。実は私の連れ合いの父親（義父）は、治安維持法の犠牲者でした。その義父のことと、義父の母親（義理の祖母）について触れたいと思います。

■検挙理由は共産党幹部を匿（かくま）った

義父は戦前、治安維持法で検挙されたことがあると言います。「と言います」という言い方にしたのはなぜかということ、いつかこのことの詳細を聞こうと思っていましたが、果たせぬまま他界してしまったからです。義父は1900（明治33）年生まれで、書生をやりながら立教大学を卒業した苦学生の一人でした。

温厚な人柄で本好きが昂じて、戦前は貸本屋を営み、ほそぼそと暮らしていました。検挙の理由は、共産党の幹部を匿ったことだと言います。おそらく本人も共産党員だったと思われます。もともと小柄な人でしたが、下獄によって健康を損ない兵役を免れています。これは喜ぶべきことかどうか、評価の分かれるところですよ。

戦前のことを義父はあまり話したがりませんでした。家族も同じようで、「触れてはならない」領域になっていたようです。しかし戦後になって、選挙のときなどは公然と共産党の活動をしていたと言います。

戦後は、貸本屋をやめたあと和菓子屋を営み、朝から夜まで働き続けました。火事で焼け出されたあと、こんどはお菓子屋さんを経営。「甘いもの屋」に育ったうちのカミさんは、虫歯の女王となり、今でもその痕跡を残しています（笑）。

義父は78歳で他界しましたが、この義父を自分の養子として迎えた女性がいました。この女性はのちに歌人となり、プロレタリア文学の「多喜二・百合子賞」（現在では休止）を1986年に受賞しています。

■八坂スミ（本名・石塚ルイ）さん

その人は八坂スミ（本名・石塚ルイ）さん。「このこともできなくなったが 手にはまだ 平和を守る一票がある」という歌は今でも引用されることがあります。ルイさんは自分の息子の活動に刺激され、自らも共産党員となったということを歌集に記しています。

嫁姑の折り合いが悪く、ルイさんは独り暮らしをすることになります。家族と断絶状態になり、その影響で（彼女にとっては孫の連れ合いとなる）私は電話で何度か話したことはありますが、ルイさんに会うことができないまま、永久の別れとなっています。八坂というペンネームは、かつて住んでいた新宿区落合に「八の坂」という地名があり、そこから取ったものだと言います。

「戦争は 命かけても阻むべし 母 祖母 おみな牢にみつるとも」という歌も、心揺さぶられます。戦前、義父はいのちをかけて戦争に反対したのです。その義父の思いをルイさんはどう受けて止めていたのでしょうか。この歌のなかに、その片鱗を伺い知ることが出来ます。

■「共謀罪は廃止」しかない

治安維持法時代、この母と息子は特高警察の監視下で、息をひそめて暮らしていたことでしょう。強行採決によって成立した共謀罪は、このようないつか来た道につながっている、そう断言していいと思います。もしこの母子が生きていたら、連日、国会に押しかけていたかもしれません。

法案は成立しました。が、私たちは諦めません。日弁連は成立した翌日に「廃止せよ」という談話を発表しています。戦争法（安保法制）や秘密保護法も含めて、堂々と廃止することができる政府を生み出す目標に向かって力を寄せ合いたいものです。

我が家の本棚には、ルイさんからいただいた「新陳代謝」「わたしは生きる」という2冊の歌集が収納されています。

■まず、都議選で審判を

19日付毎日新聞は、安倍内閣の支持率が10ポイント減り、36%になったことを伝えています。当然の帰結です。暴走政治にストップをかける当面のチャンスが、都議選です。

公明党の小池都知事にすり寄る「カメレオンぶり」に辟易ですが、都議選で、自・公ブロックを打ちのめす必要があります。そのために、東京千代田区の超党派候補・須賀かずおさんの当選のために全力を挙げています。（水久保文明）



治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 第38回全国大会に参加して

2012年師走の準備段階から13年1月の「真相を広める会」結成時、そして以後現在まで、治安維持法犠牲者国賠要求同盟のみなさんには、ご支援いただき、私も同盟の一員となりました。そんな関係から、東京で開催された大会に評議員として出席しました。

同盟は来年結成50年を迎えます。この間、一貫して国家権力が隠蔽・廃棄して不明になっていた治安維持法犠牲者の徹底調査を進め、犠牲者に対して国家賠償を要求する運動を進めてきました。

同盟の調査によれば、ドイツではナチスの犠牲者には年金支給が行われ、ナチス時代の「国家反逆者」として裁かれた人たちの名誉回復を行う「包括的名誉回復法」が2009年に新たに制定されました。イタリアでは、ファシズム体制下で実刑を受けた反ファシスト政治犯に終身年金が支給されています。アメリカ・カナダでは、1990年にそれぞれ第二次世界大戦中強制収容した日系市民に対して、アメリカでは一人1万ドル、カナダは1万1千ドルの補償が行われました。

それにひきかえ、日本では政府が公然と「治安維持法は適法であり、損害賠償も謝罪もしない」と答弁するという事態です。ここでも日本の戦争に向き合う姿勢が問われています。



同盟は、結成50年を前に、戦時下、苦難の闘いとその中で闘いの炎を受け継ぐ努力を重ねた人々の記録をまとめた映画「種まく人びと」DVDを制作しました。

現在よりも遥かに厳しい弾圧下、

先人たちがどのような思いで、そして弾圧に抵抗して運動を進めてきたかを知ることは、意義あることだと思います。ご希望の方、事務局までご連絡ください。1000円+送料です。

(福島 清)

<コラム> 冤罪忘れるな！⑬

幼な子別離の送還

1942年6月出帆の日米交換船

レーン夫妻の双子の末娘12歳が、6月4日に札幌を発ち、26日横浜港から日米交換船でアメリカへと送還された。前年12月夫妻が検挙されたとき、自宅官舎には姉妹と病身の老祖父（ハロルドの父83歳）が取り残され、宗派を異にするカトリック修道会が面倒をみてくれたが、年明け1月19日祖父は亡くなった。冤罪の惨禍は一番弱いところへ折り重なっていく。



レーン家は日本語で生活し、姉妹は日本語の学校で日本人の子と泥まみれで遊び学んでいた。だから英語は覚束なく、長旅の船上でも「祖国」に着いてからも幼い異邦人だった。いつも二人で固く手を繋ぎ、逆境に耐え、「敵地」に囚われた父母を祈った。逆に姉妹の父母は家族を分断する詐計の底で、絶望と絶望を選択する思いで幼き二人だけの旅を決断し、見たこともない「祖国」へと避難させる道に祈ったのだろう。

◆ ◆ ◆
「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部＝冤罪の真相、第2部＝冤罪事実の条条検証
資料編＝判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付＝重要事項索引（別冊）

申し込みは FAX・メールで本会事務局まで（1面上部題字横に掲載）。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】戦争法強行可決から一年後の昨年9月19日の総がかり行動時はまだ暑さが残っていました。国会開会日の1月20日、議員会館前の街路樹は寒風に揺れていました。そして安保闘争下、樺美智子さんが圧殺された日でもある6月15日、共謀罪成立が強行されました。月日の早さと悪政ごり押しスピードが重なっているようです。事務局を置かせてもらっている千代田区労協のみなさん、北大OBで会員の伊藤陽一、セツさん夫妻らと一緒に、「真相を広める会」の職を立てて、安倍政権打倒へ行動を続けます。（福島 清）